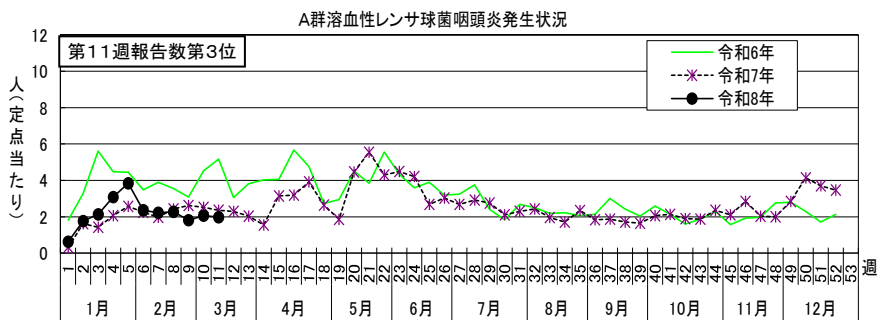
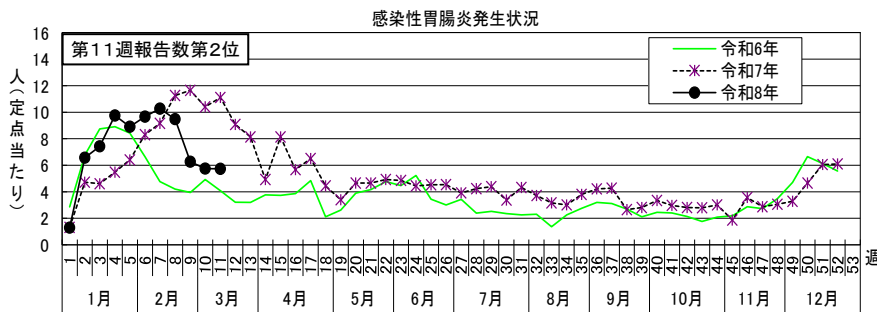
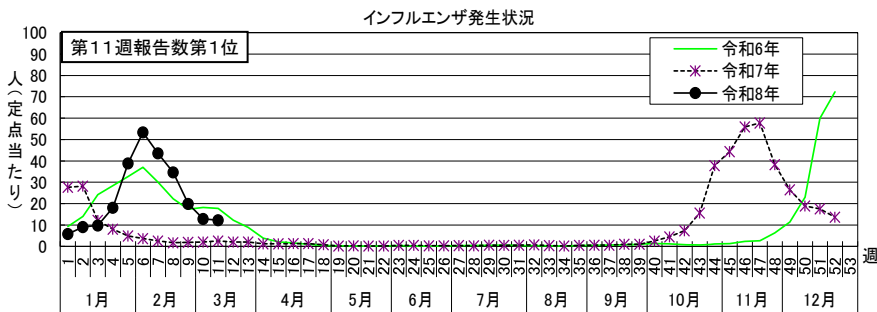


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和8年3月9日（月）～令和8年3月15日（日）〔令和8年第11週〕の感染症発生状況

第11週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) インフルエンザ 2) 感染性胃腸炎 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 インフルエンザの定点当たり患者報告数は12.26人と前週（12.85人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は5.73人と前週（5.76人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は1.97人と前週（2.05人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



海外旅行後の体調変化に御注意ください！

海外から帰国後に下痢や発熱等の体調不良を訴える方は多く、感染症によっては帰国後数週間経ってから発症する場合があります。国内では通常みられない感染症にり患している可能性もあるため、体調が優れない場合は早めに医療機関を受診しましょう。受診の際には、症状だけでなく渡航先や渡航時期、渡航先での詳細な行動等をお伝えください。特定の感染症を疑うことで診断がつき、適切な治療を早期に開始することができます。

帰国後の健康チェックのポイント 例：A型肝炎

① 渡航先、渡航時期は？
 例：インドに〇月△日から1週間滞在

② 渡航先で何があった？
 例：氷の入った飲み物を飲んだ

発症

③ 症状はいつから？
 例：帰国の4週間後から
 特に発展途上国を旅行した後、少なくとも6か月間は、旅行関連の感染症を発症する可能性があります。

④ 症状は？
 例：発熱、倦怠感、嘔吐、食欲不振、肝機能異常等

① 渡航先、渡航時期等
 渡航先の流行状況や、渡航時期と潜伏期間から、特定の感染症を疑うことができるため、重要な情報となります。

② 渡航中の行動
 生の水や加熱していない食物の飲食、虫さされ、動物との接触、性行為等は、診断の際に有用な情報となります。

③ 発症日
 発症日と潜伏期間を併せて考えることで、渡航先での感染であるかを、明確にすることができます。

④ 症状
 発熱や下痢の他、発しんや黄疸（白目が黄色くなる）、意識障害等の症状が現れる感染症もあります。